石清水八幡宮の末社と摂社

石清水八幡宮の本社の裏手にはいくつかの小さな神社があり、その一部は国指定重要文化財です。大きな神社は通常、境内に複数のより小さな神社を有し、それらは多くの場合、本社の祭神に何らかの形で関連する神が祀られています。これは、参拝者が一箇所でも多くのことを祈ることを可能にします。

石清水八幡宮の摂社の中で最も重要な二つの摂社は、本社の敷地の北東にある1組の木造神社である若宮社と若宮伝社です。本殿で儀式に参加する人は、清めの衣（「浄化の祈願衣」）と呼ばれる象徴的な祈願衣を受け取ります。祈祷の後、儀式の参加者はその祈願衣に自分の願いを書き、若宮社または若宮殿舎の柵に掛けます。男性は、本殿に祀られている応神天皇の息子である仁徳天皇を祀る若宮社へ参拝します。女性は、仁徳天皇の姉妹である皇女を祀る若宮殿社へ参拝します。

本社の裏にあるその他の末社には、良縁、必勝、豊富な降雨、安全な航海、豊作、豊漁、交通安全、健康、そして商売繁盛に関連するさまざまな神々が祀られています。